

平成22年度 第3回豊田市商業振興委員会会議録

【日 時】 平成22年8月9日(月) 午後3時00分～5時15分

【場 所】 豊田市役所 足助支所 第3会議室

【出席者】

委員

加藤 勇夫〔愛知学院大学名誉教授〕
河木 照雄〔豊田商工会議所副会頭〕
杉戸 厚吉〔社団法人地域問題研究所計画部長〕
浅井 良隆〔コンサルティング オフィス アット・ドリーム〕
澤田 恵美子〔豊田市消費者グループ連絡会会長〕
松井 栄子〔三州足助公社〕

事務局

鈴木 辰吉〔豊田市産業部長〕
畔柳 寿文〔豊田市産業部調整監〕
太田 錬治〔豊田市産業部商業観光課長〕
清水 章〔豊田市商業観光課副主幹〕
松澤 秀記〔豊田市産業部商業観光課係長〕
小林 洋明〔豊田市産業部商業観光課主査〕
鈴木 啓介〔豊田市産業部商業観光課主査〕

傍聴者

なし

【次 第】

- 1 開 会
- 2 会議の公開及び本日の審議スケジュールについて
- 3 委員長あいさつ
- 4 審議事項
(1) がんばる商店街応援プランローリングについて
- 5 閉 会

【会議録（要約表記）】

1 開会

事務局より、平成22年度第3回豊田市商業振興委員会の開会の宣言が行われた。

2 会議の公開及び本日の審議スケジュールについて

事務局より、資料の確認、傍聴人数、審議スケジュールについて説明が行われた。

3 委員長あいさつ

加藤委員長よりあいさつが行われた。

4 審議事項

(1) がんばる商店街応援プランローリングについて

事務局より、資料に基づき内容説明を行い、委員から意見をいただいた。

【主な質疑応答】

委員

商業を取り巻く環境の変化については、デフレ、インターネットの普及などマクロの要因、商店街の現状などのミクロの要因等分けて記載すべき。

委員

消費の流出についてはどうか。

委員

一番の問題は南部地域の消費の流出。中心市街地で南部の消費までカバーするのか？小売吸引力1.0を目指す目標を掲げるのであれば、南部に商業核をつくるという判断も政策的な選択肢としてありえる。

事務局

上郷・高岡地区の人口が15万人。商圈は十分に築ける。知立、安城、岡崎に消費が流出してしまっている。

委員

現在の制度の成果については、もう少し記載が必要。

委員

商店街活性化計画を策定することで、商店街がどう変わったか、具体例を記載してはどうか空き店舗数の変化などの数字が拾えるのであれば、そういった数字を記載したほうが良い。

委員

がんばる気持ちはあるが、方法が分からないというのであれば、その方法を教えていくことは必要。また、1度商店街活性化計画を作っておきながら、2度目の計画を作らなかった理由も考察できれば、何か支援策が検討できるかもしれない。

委員

買物動向調査を見ても、大型店の占めるウェイトが大きくなっており、大型店抜きに商業は語れない。これからの商業の果たす役割の一つとして、地域の生活課題の解決も求められる。大型店抜きの地域商店街のみでは課題解決が難しいため、大型店にも地域貢献を求めていくことが必要である。

委員

大型店、チェーン店が進出し、地域商業地を疲弊させておいて、売上目標が達成できないからと退店していくといったことを防ぐため、地域に根付く商業展開を求めるというのも大きなテーマである。

委員

商業者のための商業振興ではなく、市民のための商業振興であることが大前提。まず商店街の自助努力が必要。また、行政・商業者・消費者が一体になって豊田市商業を考えていく体制づくりにも触れていきたい。

委員

地域コミュニティの担い手として期待されるのは商店街だけでなく、商業を担う者全般であり、生活ニーズに商業的手法で応えていくことが求められている。

委員

コミュニティの安全・安心を守るという部分での商業施設の果たすべき役割を明確にしていくこと。商業施設が存在することが地域の安全・安心に繋がる。地域コミュニティの担い手は、商店街だけでなく、地域コミュニティの中に存在する商業全体である。地域コミュニティの担い手の一つである商業をどう強化していくか、商業の果たすべき役割をどう担保していくか。商業者全体が商業団体に加盟し、地域生活課題を一緒に解決していくことが求められている。

委員

地域コミュニティ維持のために商店街を守らなければならないだけでなく、商業者が地域コミュニティの担い手として、地域に必要とされるよう活動していくことが求められているということを明確に打ち出す必要がある。

5 その他（連絡事項）

今後の予定

平成22年度 第4回開催予定日 平成22年9月28日（火）14:00～

以上